

# ことばの教室の指導と運営

## 第三章

### 指導について

#### 2 構音障害

執筆：山形市立第三小学校 梅村 正俊

【お断り】 本稿は、山形県言語障害児教育研究会(2002)の「ことばの教室の指導と運営」から梅村の執筆した「第三章 指導について 2 構音障害」を抜粋したものです。尚、抜粋及びHPへのアップにあたっては、研究会からの了解を得ています。

山形県言語障害児教育研究会

発行：平成14年5月

## 2 構音障害

Q 2 2 構音障害とは何ですか。どんな指導をすればいいのですか。

構音障害とは、一口で言うならば、「ある特定の構音が、誤って構音される状態」を言います。その誤り方については、「Q 2 3 構音障害にはどんな種類がありますか。」で触れます。

一口で言うと簡単なのですが、これは、子どもの人格形成上大きな陰を落とす問題でもあります。人によっては、大人まで尾を引く場合もあります。これについては、「Q 2 9 側音化構音とは何ですか。」で触れます。

また、ある病気を原因にして生じることがありますから、その病気のサインということもできます。これについては、「Q 2 6 構音検査の方法、視点、留意点はどんなことですか。」で触れます。

「構音障害（構音の誤り）」と同義語に使用されることのある「発音の誤り」との違いについては、「Q 2 5」で触れます。

構音障害の指導については、Q 2 7からQ 3 5をご覧ください。

Q 2 3 構音障害にはどんな種類がありますか。

構音の誤り方は、様々です。ここでは、比較的多く見られる誤り方を幾つか紹介します。

### (1) 発達途上認められる構音の誤り（いわゆる幼児音）

音声言語学には、「幼児音」という専門用語はありません。「幼児音」という言葉は、幼児教育の中で使用されているようです。

単語や文での誤り方としては、例えば、以下のようなものがあります。

[せんせい] ⇒ [チエンチエイ] や [テンテイ] など

[ぞうさん] ⇒ [ドウタン] や [ジョウチャン] や [ゴウカン] など

[しかの子、トコトコかけてくる] ⇒ [シタノト、トトトタテテトウル] など

[しゃしん] ⇒ [チャチン] など

[かえる] ⇒ [タエル] など

[げんきです] ⇒ [デンチデス] や [ジエンチデス] など

[たいこ] ⇒ [カイコ] など

[ライオン] ⇒ [アイオン] や [ダイオン] など

これらの構音の誤りの全てが、一人の子どもに現れることは、非常に稀です。一般的には、[サ行・ザ行・ツ] が [タ行・ダ行・トゥ] や [チャ行・チャ行・チュ] になる構音の誤りが認められる子、[カ行・ガ行] が [タ行・ダ行] になる構音の誤りが認められる子、[タ行・ダ行] が [カ行・ガ行] になる構音の誤りが認められる子、[ラ行] が [ア行] や [ダ行] になる構音の誤りが認められる子などのように、似ている構音の仕方の発音が一まとまりになって誤ることが多いです。もちろん [サ行・ザ行・ツ] と [カ行・ガ行] に誤り構音（例；[さかな] ⇒ [タタナ]）が認められるというように、系列の異なった構音での誤りを持つ子どももいます。

発達途上認められる構音の誤りの場合、誤り構音が多くなればなるほど目だってきます。〔シタノト、トトトタテテトウル（鹿の子、トコトコかけてくる）〕と聞こえれば「下の戸、トットと立てて来る」、〔ゴウカン（ぞうさん）〕と聞こえれば「強姦」のように解釈されるかも知れません。つまり、コミュニケーション上支障をきたすことが多くなります。

ところで、発達途上認められる構音の誤りは、多くの場合、ほおっておいても小学1年生から3年生までの間には自然に正しい構音になってきます。

但し、これには、条件があります。周囲の大人や子ども自身、構音の誤りを気にせず、従って、4年生頃まで、子どもが文字通り元気にたくさん話ができるならばという条件です。しかし、このような状態を維持することは、発音が目立ったままで可能なことでしょうか。

先ほど多くの場合とことわったわけですから、稀には3年生を過ぎても本来の発音にならないこともあります。もちろん〔さかな〕を〔タカナ〕や〔チャカナ〕とそのまま言っていることは稀です。〔サ行・ザ行・ツ〕の発音を『上の歯と下の唇』で、また、逆に『下の歯と上の唇』でするために、〔さかな〕は〔ファカナ〕に、〔せんせい〕が〔フェンフェイ〕に聞こえるように発音が変化したり、英語の発音のように舌先を軽く歯で咬んで発音する〔サ行・ザ行・ツ〕になっていたことがあります。また、発音の状態は全くそのままなのですが、学校では全く話をしないという“場面緘黙”になっていた3年生の女の子もいました。発達途上認められる構音の誤りは、比較的自然に改善されやすいことから、軽く扱われ易いのですが、その分だけ、問題も生じやすいのです。

## (2) 側音化構音そくおんかこうおん

側音化構音という構音の仕方は、本来、口の中央から音が出るものが、舌の誤った動きにより、口の右や左や、また両側から音が出てしまい、耳障りな感じのする歪んだ発音になる。発音によっては、ほかの音に聞こえたりすることもあります。

特に、〔チ・チャ行〕〔ジ・ジャ行〕は、〔キ・キャ行〕〔ギ・ギャ行〕に、〔リ・リヤ行〕は、〔ギ・ギャ行〕に聞こえることが多いのです。

このような誤り構音になる原因は、今のところはっきりしていません。随意運動機能に遅れが見られる子どももいますが、ほとんどの場合、生育歴上の問題、知的認知的問題、随意運動機能等なら問題は認められません。

## (3) 声門破裂音せいもんはれつおん

声門破裂音という構音の仕方は、ちょうど咳をする場所で構音する音を言います。〔おかあさん〕が〔オアッーアン〕、〔パン〕が〔アッン〕のように聞こえ、子音の省略と誤解されがちです。

この構音障害は、口蓋裂、粘膜化口蓋裂、高度難聴などが原因で生じることが多くあります。

## (4) 鼻腔構音びくうこうおん = 鼻咽腔構音ひいんくうこうおん

鼻腔構音という構音の仕方は、鼻で「ングッ」というような音を出す構音のことを言います。

この構音障害は、口蓋裂、粘膜化口蓋裂などが原因で生じることが多くあります。

## (5) 音の脱落（促音化）

教科書の音読や会話において、「～しました。」が「～しまった。」のように〔シ〕の音が脱落して起こる発音の誤りです。このような脱落は、高音域急壁型の難聴の子どもにも多く見られます。

## (6) その他

長い音節の単語のある音節が省略され短くなったり（例；コイノポリ⇒コノポリ）、音節順がばらばらだったり（例；ヤマザワ⇒ヤザマワ）、一貫した誤りでなかったり（例；クダモノ⇒クダノノ・クダノモ・クダモモ）することがあります。

Q 2 4 構音と発音は違うのでしょうか。

「構音」というのは、漢字の通り「音を構える」、つまり、舌の形や発音を造る舌の位置・口の開き方・声の出し方のことを指します。例えば、「タ」は、構音記号で [ta] と書きますが、「/t/の構音は？」と言った場合、「舌の形は全体的に平らにし、舌の先だけを上の歯茎に軽く接触させ、接触させた場所で破裂させるように息を出す」といように表現します。この構音の仕方を誤ると、別の発音になったり、歪んで聞こえたり濁って聞こえたりすわけです。

言語障害—事例による用語解説 [第2版] では、「構音器官（発声発語器官）を使って語音を作り出す過程を指すことばで、調音とも言います。」と述べています。

一方「発音」は、構音の結果、それがどう聞こえるかという「聞こえ方」の問題です。

ですから、口腔内に医療的な問題があり、構音が誤っている場合は、構音の仕方は多少異なるが発音は良いという状態を目指す指導もありうるわけです。

Q 2 5 構音記号って何ですか。

「構音記号」は、「構音の仕方」を記号で表現したものです。Q 2 4で「/t/の構音は？」と言った場合、「舌の形は全体的に平らにし、舌の先だけを上の歯茎に軽く接触させ、接触させた場所で破裂させるように息を出す」といように表現しますと述べましたが、「構音記号」の観点から表現するならば、「舌の形は全体的に平らにし、舌の先だけを上の歯茎に軽く接触させ、接触させた場所で破裂させるように息を出す」構音を「/t/と表現する」ということになります。

以下の表は、日本音声学会が国際音声学協会の表記法に基づき、標準語、方言、外来語用に出した  
講座 言語障害の診断と指導 第1巻  
構音障害の診断と指導 飯高京子他編 学苑社 P12

表1-2 日本語表記法

		両唇音	唇歯音	歯音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	咽喉音	補助符号	
子	破裂音	無声	P		t	(c)	k		長音符	全長 : 半長 :
		有声	b		d		g			
	通鼻音	無声							変母音符	..
		有声	m	(m̃)		n ɲ	ŋ ɳ			
音	摩擦音	無声	F	(f)	s	ʃ	ç	h	口蓋化符	^又は^
		有声	w	(v)	z	ʒ	j			無声化符
	破裂音	無声			ts	tʃ			有声化符	◌̚
		有声			dz	dʒ				鼻音化符
	弾音	無声							休息符	全休    半休
		有声				ɾ (ɽ)				
母音	小開き母音					i (i̥) (ü) u			アクセント符	-
	半開き母音					e (e̥) (ə) o				
	大開き母音					(æ) a			調子符	平→降↘ 昇↗降昇↘

【註記】 いわゆる標準音の表記は本表の記号につきている。丸括弧 ( ) の記号は方言音とか外来語音を含める場合に使用する。なお国際記号との関係は、F=ɸ, n=N, r=ɾであり、また母音では国際記号にも次の両用がある：i=i, ü=ui, ə=ə。また日本のアクセント記号は棒線-のほかにカギ「」も併用されている。

『日本語表記法』です。構音記号を「構音点（構音する場所）；両唇音等」と「音の出し方；破裂音等」の観点からまとめてあります。

例えば、[t, d]が側音化構音になっているとします。一方[tʃ]の構音は[t]と[ʃ]が合わさった構音、[dʒ]の構音は[d]と[ʒ]が合わさった構音になる訳ですから、当然『構音の関係』で見ると[t, d]を含む[tʃ, dʒ]は側音化構音になっているだろうと考えなくてはなりません。従って、「発音としては[tʃi, tʃ, dʒi, dʒ]はそれらしく聞こえるが、構音としてはどうだろう？」という観点での再確認が必要になります。

**この観点は、側音化構音の判断で重要な意味を持ってきます。**

このように「構音記号」は『構音の仕方』を表現していますから、構音指導プログラムを検討する際に構音方法の類似性から検討するには一目瞭然と言うことになります。

**普段から構音記号には慣れ親しんでおきたいものです。**

ちなみに、「サ行がタ行になる」と記述された場合、構音記号で表記すると[ta, tʃi, tsw, te, to]になります。[ス]が[ツ]に構音されていればこの表現は誤りとは言えませんが、[チュ]に構音されていればこの表現は誤りとなります。誤解を与えないためにも「構音記号」で表現することをお勧めします。

また、構音記号は正確に記載しましょう。自分のワープロにないからといって、似ている記号を用いるのは、「ぬ」の代わりに「め」、「ね」の代わりに「れ」を書くようなものです。研究集録で、特に目立つのが、[ɸ]と[w]です。日本人の「ラ・ル・レ・ロ」の場合、[r]と[l]の中間位の構音運動になるために[ɸ]の記号になっています。また、ひょっとこのように口唇を突き出して「ウ」を言うのが[u]です。日本人の「ウ」は、口唇を半開きの状態で構音をしますので[w]の記号になっています。このように各記号にはそれなりの意味があるのです。

尚、校内研などでことばの教室担当者以外の方が多く参加される場合は、「構音記号」は使用せず、カタカナで表記するのがよいでしょう。

## Q 2 6 構音検査の方法、視点、留意点はどんなことですか。

### 1. 構音検査の目的

構音検査の目的は、第1に、構音の誤りの有無を検査すると共にその誤り方を把握することにあります。第2に、構音の誤り方から「医療的な疾病」の有無を想定します。

### 2. 構音検査の方法

構音検査の方法としては、大きく分類すると、「自発」と「復唱」があります。

「自発」は、文字や絵の名前を子どもに言わせ検査します。「自発」には、文字を読ませる「読字」、絵カードの名前を言わせる「呼称」、文を読ませる「音読」があります。

「復唱」は、指導者の言った単音・単語や文を復唱させ検査します。

子どもの自然な状態での構音を検査したいので、自発による検査が良いのですが、復唱させた場合、自発では誤っているのに対し復唱では正しい構音になっているなどということが認められることがあります。つまり、指導しやすい構音と言えます。

### 3. 構音検査の種類

構音検査には、次の種類があります。

①単音（例；/t/） ②単音節（例；[ta]） ③単語 ④短文 ⑤会話



ですから、レポートなどに記載する場合は、①から⑤まで全ての検査を実施していれば良いのですが、単語による構音検査の結果を記載するのであれば、「単語構音検査の結果」と記載しなければなりません。

#### 4. 構音の状態と疑われる医療の問題

下の表は、「構音の状態と疑われる医療の問題」について、「言語障害治療学」「言語病理学診断法」「ことばの治療」「読解読書の難シ-ズ①構音障害」「読解読書の難シ-ズ④難聴」「読解読書の難シ-ズ⑤口蓋裂」「口蓋裂の言語治療」などの文献、プラス筆者の経験からまとめたものです。

構音や発音の誤りの状態	疑われる問題	
① 発達途上認められる構音の誤り	D E H I J K	A 口蓋裂・粘膜下口蓋裂 B 鼻咽腔閉鎖機能不全 C 軟口蓋短縮症 等
② 側音化構音	D F G H	D 軽度・中度難聴 E 高音域急壁型難聴
③ 開鼻音	A B C D	F 運動性構音障害 G 麻痺性構音障害 H 随意運動機能の問題
④ 声門破裂音	A B C D L	I 舌小帯の問題
⑤ 鼻咽腔構音	A B C D L	J 知的能力の問題 K 語音記憶力・ 語音認知力の問題
⑥ 全体的に不明瞭な発音	D E F G I J K	L 親子関係の問題
⑦ 弾音や歯茎音・歯音の誤り	I L	
⑧ 主に[シ]の促音化	D E	
⑨・音節の省略・一貫しない誤り ・音節順のばらつき	D E J K L	

※ 太い字体は、より関連が強いことを示しています。細い字体は、関連としては弱いこともあるが、念のためにこれらの問題の有無の確認だけはしておく必要があることを示しています。

実際の例を紹介します。

#### 《大人の顔色を見て動く、カナちゃん(仮名)》

年長幼児の女の子です。

知り合いのいる保育園に立ち寄ったときのことで、幼児音が残っているようなので相談を親に勧めたほうがいいか見てくれということでした。

確かに「せんせい」を「チエンチエイ」と言いますが、正しく言えることもあるのです。ですから「そのうちに直るのでは。」と考え、相談を親に勧めたほうがいいかどうか迷っていたのでした。でも、どこもおかしいのです。

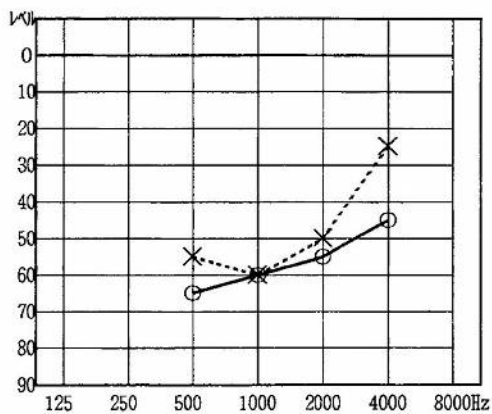
カナちゃんを後ろ向きにし、先生から名前を読んでもらいました。返事がありません。子どもと対面して名前を言うとちゃんと返事をしてくれました。園での生活の様子を聞くと、後ろから呼んでも振り向かないことが時々あるが、遊びに熱中していたからと解釈していたとのことでした。話が伝わらないなどと思うこともあったそうです。

家庭の様子では、お父さんの言うことは聞けど、お母さんの言うことを聞かないということで、お母さんは、カナちゃんのことを、大人の顔色を見て動く悪い子と思っていたようです。

高度難聴でないことは、確かです。

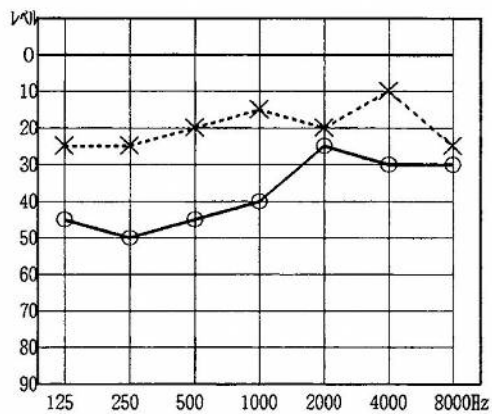
大学病院の専門の先生から診ていただいたところ、浸出性中耳炎が進行中で、耳小骨が損傷を受けていること、難聴は片方が軽度難聴でもう一方が中度難聴であることが分かりました。浸出性中耳炎による膿が耳管を通して食道に流れていたために、耳から膿が出ず、家の人も中耳炎には全く気が付いていませんでした。

浸出性中耳炎の治療後、耳小骨の移植が行われました。両耳の移植が終った時、カナちゃんは、小学校2年生になっていました。



平均聴力レベル 右 60.0 dB 左 55.0 dB

手術前のオーディオグラム



平均聴力レベル 右 37.5 dB 左 17.5 dB

手術後のオーディオグラム

結局、両耳とも補聴器装用が必要なく済みました。聞こえるようになってからの学力の向上には、その学校の先生方全員が驚いたそうです。

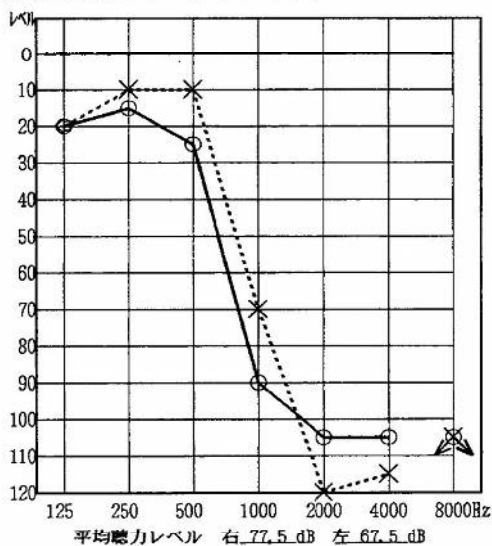
### 《トンチンカンな受け答えをする少し変わった子、タロウ君（仮名）》

年長幼児の男の子です。

変な発音をするというのが主訴でした。

構音検査をすると、一貫性の無い誤り方で、同じ発音でも誤ることもあれば正しいこともあるというような状態でした。

聞かれたことには答えてくれますが、その答が合っているのかいないのか分からないのです。家庭でも、「こうして。」と言うと別のことをやったり、トンチンカンな受け答えをする少し変わった子だねと話題にはなっていたそうです。



平均聴力レベル 右 77.5 dB 左 67.5 dB

すぐ聴力検査をしました。高音域急墜型の難聴が疑われました。

親には、すぐには信じられない様子でした。

とにかく病院での診察を受けることだけは、了解してもらいました。

大学病院の専門の先生から診ていただく予定でしたが、急な用事が入ったとのこと、別の医師から診ていただくことになりました。

浸出性中耳炎が進行中であることが分かりました。浸出性中耳炎による膿が耳管を通過して食道に流れていたために耳から膿が出ず、家の人も中耳炎には全く気が付いていませんでした。

ところがです。「年齢が低く純音聴力検査はできない。話をしてみると聞こえているようだから難聴の心配はないでしょう。」と言うので

す。早速、病院の帰り父親が来室して言いました。「難聴は、ないそうです。」

ちょうどタロウ君も一緒に来ていたので、聴力検査を父親の目の前で行うことにしました。両耳用の聴力検査器だったので、片方のヘッドホンを父親に、一方のヘッドホンを子どもに装着しました。4000Hzで70dBの音を出しました。父親は思わずヘッドホンを耳から外しました。子どもはというと、何事もないように平気な顔でいます。タロウ君が装着したヘッドホンからは4000Hzの音が漏れていました。その音は、父親も聞くことができました。疑いもなく聞こえていないのです。

再度病院に行ってもらいました。脳波聴力検査を実施し、やっと高音域急墜型の難聴であることが確認されたのです。その後、補聴器を装用し、補聴器装用訓練、構音指導を行いました。

【 幼児音で、しかも正しい発音が出ているとなれば、まず、相談を勧める先生はいません。もし

かすると、その中にカナちゃんやタロウ君のような子がいたのかも知れません。】

《粘膜下口蓋裂を見逃されていた、ヨシコさん（仮名）》

小学1年生の女の子です。

学校を訪問してのことばの検査を行ったときのことでです。

〔カ行・ガ行〕が、声門破裂音になっていました。構音の状態や軟口蓋の様子から粘膜下口蓋裂が疑われました。家が学校から近く母親は家にいるということで、早速母親と話をしました。

「3年前から、ある指導機関で指導を受けていた。そこからは、入学するにあたって、3年間指導しても直らなかったのだから、もう直らないと思うと言われた。」とのことでした。

大学病院の専門の先生に連絡を取り、受診してもらいました。やはり粘膜下口蓋裂でした。すぐ手術を受けることになりました。

手術が終わって、ことばの教室に通い初めて約3か月後、カ行が言えるようになったのです。母親曰く、「あの3年間は何だったのか。無駄に過ごしたようだ。手術さえすればこんなに早く発音が直るんだったら、どうして（医者を）紹介してくれなかったんだろう。」

通級するには、ガソリン代・通級に要する時間が必要です。それだけではありません。いつ直るのかと心配して過ごした3年間の報われない日々があるのです。どう保障・弁償できると言うのでしょうか。

《鼻咽腔閉鎖機能不全を見逃されていた、タツオ君（仮名）》

直接検査した子どもではありませんでした。ある大学の先生から相談されたのです。

「こういうカセットテープ（会話や単語の呼称の録音）が送られて来て。幼児期1年間小学校6年間、計約7年間指導してきたけど良くならない。だからもう直らないと思いますがどうでしょうかという質問なのだけど、どう思う。」と尋ねるのです。

小学6年生の男の子でした。卒業時期を迎えて指導者は、少々不安になったのでしょうか。本当に直らないのではないかと。

〔カ行・ガ行〕〔サ行・ザ行・ツ・シャ行・シ〕などが、開鼻音や声門破裂音になっていました。

会話の内容から、知的には問題が無いことが分かりました。疑われることは、軽度の脳性マヒからくる舌の緊張、高度難聴、鼻咽腔閉鎖機能の問題の3点です。喉を緊張させ下顎が偏位したときに生じる摩擦音が無いので、舌の緊張ではない。補聴器装用なしで会話が成立していることから、高度難聴ではない。結局鼻咽腔閉鎖機能の問題だろうと予想しました。手紙には、何回か東京の病院でも診てもらい、口蓋裂はないとの診断であること、言語訓練を続けるようにとの指示であることが書いてありました。

大学病院の専門の先生を紹介することになりました。診断名は、鼻咽腔閉鎖機能不全。

この子の場合、救いだったのは、指導を担当された先生が不安を抱いたことでしょうか。自分の指導に自信のある先生であれば、「7年間も指導してきて直らなかったのだからもう直りません。」で、問い合わせもせずに終わっていたかも知れません。

このように構音検査に習熟することがいかに大切か、理解していただけたのではないのでしょうか。

声門破裂音を子音の省略と間違えたり、鼻咽腔構音の〔su〕を〔ku〕と聞き違えたりすることは、医療的な問題の発見を遅らせる結果となります。従って、私たちの責任は重大です。たとえ他の指導機関で既に指導を受けていたとしても、そこはそこ、うちうちという態度で子どもに臨まなければなりません。他の指導機関では、見逃しているかもしれないのですから。

Q 2 7 構音指導を行う上での一般的な留意点を教えて下さい。

「Q12 子どもとの関係が1対1の指導ではとても大切になってきますが、いい関係はどうするとつくれるのでしょうか？」をご覧ください。



Q 2 8 幼児音とは何ですか。どう指導すればいいのでしょうか。

「Q 2 3 構音障害にはどんな種類がありますか。」をご覧ください。

音声言語学には、「幼児音」という専門用語はありません。「幼児音」という言葉は、幼児教育の中で使用されているようです。「口蓋裂の言語治療」の中では『発達途上認められる構音の誤り』という用語が用いられています。

下の表は、構音の発達を示したものです。

3歳までに確実になる	ヤ行, ガグゲゴ, ダデド,
3歳までにほぼ獲得	マ行, ナ行, ニヤ行, バ行, カクケコ, ガグゲゴ, ワ, チ・チャ行, ジ・ジャ行, ミ・ミヤ行, ビ・ビヤ行
3:0~3:5	キ・キャ行, ギ・ギヤ行, ヒヤ行
3:6~3:11	ハフヘホ, シ・シャ行,
4:0~4:6	ヒ, サスセソ, ツ, ザズゼゾ
4:6以降	ラ行

坂内俱子; 子どもの構音能力について 言語障害児研究-第1集 日文 p.16-32 1967

研究によっては、「ラ行」の構音の獲得が6歳前後というのがありますが、経験的にはこの発達の経過が実際に近いように感じています。

このように構音が獲得されていくとしたら、『発達途上認められる構音の誤り』を指導の対象にするのは、なぜなのでしょう。

以下の文は、サチ子さん(仮名)のお母さんが書かれたものです。まずは、サチ子さんのお母さんの気持ちになって、じっくり読んでみて下さい。

去年の10月に新一年生の就学時健診がありました。その時に「発音がちょっとおかしいね。」「先生に保育園での様子を聞いて、ことばの教室に相談に来るかどうか相談してみてくださいね。」と検査の先生に言われて、ちょっぴり心配になりました。

次の日、保育園の先生に、「昨日、言葉の専門の先生に、発音が、ちょっとおかしい。」「相談に来たほうがいい。」と、言われたことをそのままお話ししました。「サチ子ちゃんが気にならないならべつに。」「友だちも発音のことは気にしてないし。」「もうちょっと時間が経つと直るんねが一。」「と、保育園の先生に言われて、ちょっぴり心配していた気持ちも安心に変わっていました。実は、ことばの検査の時に、ことばの教室の電話番号を一応教えてくださいと言って、私は聞いていたんです。でも、保育園の先生の言葉で安心して電話はしませんでした。

さあ、卒園式も終わって、4月から新一年生。ランドセル、机はそろったし、「新しいお友達、たくさんできるかなあ。」「女の先生かな。」「大きなグラウンドで、いっぱい、いっぱい遊びたいなあ。」「早く、お姉ちゃんと学校に行きたいなあ。」と、入学式を楽しみにしていました。

ところが、入学して3日目ぐらいの朝、急に泣くんです。

「どうしたの?」と子どもに聞くと、先生が一人一人に「元気ですか?」と、声をかけるそうです。サチ子の番に来て、「はい、ゲンキです。」と本人は言ったつもりが、[キ]の発音がおかしくてみんなに笑われたそうです。

次の日の朝も、目を覚ましてすぐ泣きました。「みんなに笑われるから、学校に行きたくない。」と。大きな涙を流して、子どもが泣くんです。私も、その笑う子どもたちが憎らしくなりました。やっぱり、あの時に電話して相談しておけば良かったなあ、今頃になって悔しくてたまりませんでした。一後略

2回目の通級の時(入学約2週間後)、サチ子さんに「学校楽しい?」と尋ねてみました。「おもしろくない。行きたくない。」とサチ子さん。最近では、朝泣くこともなく学校に行ってるというお母さんの話でしたが、あれほど楽しみにしていた入学だったのに、2週間経っても、サチ子さんの受けた心の傷は、まだ癒えずにいました。

ところで、発達途上認められる構音の誤りについて、『風が吹けば桶屋が儲かる』式の理解の仕方をしてはいないでしょうか？ つまり、『発音がおかしいイコール幼児音。従って、そのうち直る。いつか直る。だから、ほっておいても大丈夫。』という理解の仕方です。サチ子さんに起こった『登校拒否未遂事件』は、この理解の仕方がいかに誤っているかを私たちに教えてくれます。

ことばは、コミュニケーションの手段の一つの方法です。その手段たる構音に何らかの理由で誤りがあるということは、コミュニケーション上の問題の発生原因になる可能性があるわけです。従って、そのまま放置することがあれば、問題発生の可能性を放置することと同じことを意味するのです。また、「Q26 構音検査の方法、視点、留意点はどんなことですか。」でも紹介しましたように、何か特別な理由があって、他の子どもたちよりも構音の獲得が遅れているのかも知れません。

ですから、私たちの仕事としては、構音検査の結果や得られた様々な情報をしっかり分析し、その所見に基づいてでなければ、「もう少し様子を見ましょう。」とは簡単に言えないのです。

構音の指導については、直接的な指導の方法と間接的な指導の方法があります。

直接的な指導の方法 … 構音器官の位置づけ法・他の音を変えていく方法・漸次接近法・鍵になる語を使う方法 等々

間接的な指導の方法 … 耳の訓練・意味論に基づく方法（クーパーの方法）・語用論に基づく方法（構文力を高める指導） 等々

これらの指導、及び構音別の指導の仕方については、下記の文献に詳細に解説してありますのでご覧ください。

ことばの治療—その理論と方法—

口蓋裂の言語治療

言語障害児教育の実際シリーズ① 構音障害

口蓋裂の言語臨床

構音障害の指導技法

側音化構音の指導研究

構音指導の際の一番の留意事項は、『発語することが楽しい、発語することに自信がある、だからもっと発語したい』と子どもが感じられるように指導することです。特に直接的な指導の方法では、乳幼児期から幼児期にかけて、子どもが楽しんで周囲の大人の構音を模倣し獲得していくように、子ども自らが模倣したくなるような指導者との関係の中で指導が進められなければなりません。そのためには、『構音障害の指導』ではなく、『子どもの指導』になるように心がけることだと思います。

**Q 2 9** 側音化構音とは何ですか。舌を見てどう判断するのですか。また、どう指導すればいいのでしょうか。

### 1 側音化構音とは

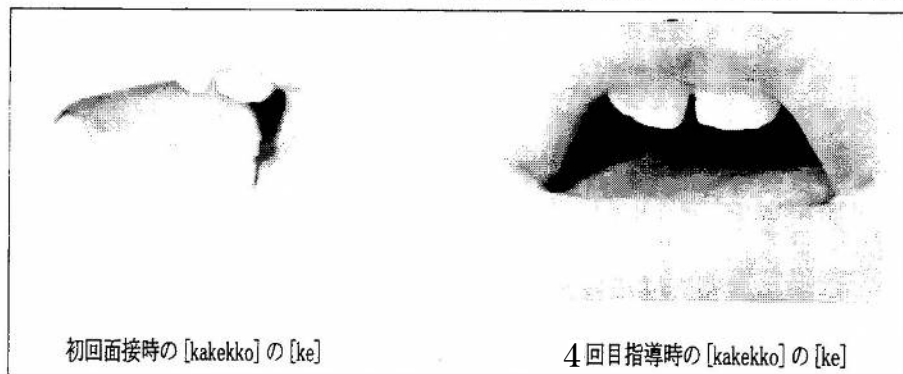
側音化構音という構音の仕方は、本来、口の中央から出る音（息）が、舌の誤った動きにより、口の右や左や、また両側から音が出てしまい、耳障りな感じのする歪んだ発音になる誤り構音の名称です。誤り方によっては、他の音に聞こえたりすることもあります。

側音化構音になりやすい構音としては、五十音で言えば、イの列の構音です。このために、イ列構音障害と呼ばれたこともあります。

両側性の側音化構音の場合は、/k//g/、/s//ts//dz/、/t//d/、/j/などの構音も側音化構音になる場合もあります。

特に、[チ・チャ行] [ジ・ジャ行] は [キ・キャ行] [ギ・ギャ行] の発音に、[リ・リヤ行] は、[ギ・ギャ行] の発音に聞こえることがあります。

このような誤り構音になる原因は、今のところはっきりしていません。随意運動機能に遅れが見られる子どももいますが、ほとんどの場合、生育歴上の問題、知的認知的問題、随意運動機能等に何ら問題は認められていません。下左の写真は、「カケッコ」の [ke] の構音時の芋舌と呼ばれる舌の形



です。全ての側音化構音がこのような舌の形になるわけではありませんが、比較的多く認められます。右の写真は、同じ子どもの6回目の指導時の「カケッコ」の [ke] です。このように普通の「ケ」に改善されます。

たくさんの構音が側音化構音になっている場合は、話に通じないことがあり、比較的早く気がつかれ、それだけに対処も早いのです。

## 2 側音化構音であることに潜む問題

問題は、誤る構音が特定の構音だけの少ない場合なのです。その少ない側音化構音が出現する代表的な構音は、[キ・ケ・キャ行] [ギ・ゲ・ギャ行] です。

実は、これらの構音が側音化構音になっても、ほとんどの場合、意志伝達としてのコミュニケーション上まったく支障はないことのほうが多いのです。言い方を変えれば、支障がなければ、わざわざ取り上げて問題にする必要はないということになります。

『意志伝達としてのコミュニケーション上』と断ったのには理由があります。言葉の機能は、意志伝達だけではありません。話は跳びますが、結構痩せてみえる人がダイエットに励んでいるという話はよく聞きます。そして、その人に「あなたは均整が取れていて十分に美しい」といくら論しても無駄だという話もよく聞きます。つまり自己認識の問題だからなのです。

一方、構音はどうでしょう？ 「気にすることはない。話はよくわかるし、変な感じなんて受けないよ。」は、構音が変わると気がついた人を納得させることはできるのでしょうか？ 構音の問題を考える上で、『話を通じるか？ 通じないか？』が基準になるのかどうか、ずいぶん以前に出会い側音化構音に潜む問題に気づかせてくれた4人の事例を紹介したいと思います。

「俺はもう職業に付いているから、もういいです。」と断った坂口さん(仮名)

坂口さん(仮名)は、50歳近くになるタクシードライバーのお父さんです。お子さんが、側音化構音のために指導を受けに通級するのに毎回付き添ってくるのです。

実は、坂口さん自身、側音化構音があるのです。そして、ずいぶん前から気がついていました。ご自身の息子さんの側音化構音に、家族の誰よりも早く気がついたことは言うまでもありません。

ある日、お子さんの指導担当の先生が、冗談交じりに、でも半分は本当に「お父さんも、一緒に指導しましょうか？」と投げかけると、「俺はもう職業に付いているから、もういいです。」と即座に笑顔で断りました。「本当にいいんですか？」とさらに一言。すると、坂口さんは「実は、若い頃はずいぶん悩んだこともあった。でも、直そうとしても直らないものはしょうがない。俺、頭が悪いから人の前で話をするなんていう職業に付けるはずもないし…。自分が小学生の頃はことばの教室もなかったし…。で、あきらめた。だから、自分の息子が俺と同じ発音になったんで、驚くやら…。で、せめて、息子だけでもちゃんとした発音にしてやりたい。俺と同じことで悩ませるわけにはいかないものな…。」と自嘲気味に話すのでした。その話をする坂口さんの雰囲気からは、本当はやりたい仕事があったのではと感じ取ることができました。

「私のほうが、悩みは深いかも……」と指導を受けることになった氷川さん（仮名）

氷川さん（仮名）は、41歳の中学校の先生です。担当は国語。

お子さんの発音の問題には、お子さんの入学前には気づかれていました。ことばの教室の存在を知っていた氷川さんは、入学後早速担任にことばの教室で指導が受けられるようお願いしました。ところが、担任からの返事は、「変な発音はないし、話はよくわかるし問題ないのでことばの教室に行く必要はありません。」ということで愕然としました。

実は、氷川さん自身にもお子さんと同じ発音の誤り、[キ・ケ・キャ行] [ギ・ゲ・ギャ行]などの発音に側音化構音があったのです。

ようやく相談に見えたのは、2学期も終わるクリスマスの頃でした。

お子さんの相談で見えたはずの氷川さんの話は、ご自身の言葉の問題とオーバーラップした話になりました。その時ふと漏らした言葉が「私のほうが、悩みは深いかも…」なのです。氷川さんの悩みは、昔の資料を整理していたときに発見した、ご本人の作文から紹介したいと思います。

私は人と話をするのが好きです。が、人と話をすることにコンプレックスを感じています。

それは、私の発音が他の人と違うことに気づいたからです。

自分の発音が他の人と違うことに気づいたのは、大学生の時です。それまでは、「ちょっと言いにくい言葉があるな。」とか「口がまわらないなあ。」と思う位で、他の人から指摘されたり、笑われたりすることもなく、「気のせいだ」と思い込んでいました。ところが、大学生時代のある日のこと、突然「大熊さん(剛) “き” って言ってごらん。」と言われたのです。自分でも言い難いと感じていた発音でしたが、「あなたの“き”なんか変だよな。」と言われ驚きました。さらに続けて、私の真似をしてその人が言った“き”の発音は、私が聞いても変だと感じましたし、『自分の発音は他の人と違う』と自覚をした最初です。それからと言うもの、“キリン”や“ペンギン”がうまく言えないということで、時々ふざけては「キリンって言ってみな」、「ペンギンって言ってごらん」などとからかわれるようになりました。そんな時私は、みんなの前では笑っていても、心の中では深く傷ついていました。「どうして言えないのだろう」とアパートで一人、鏡に向かって発音の練習をしてみました。なかなか上手に言えるわけもなく『嫌な発音だ』と諦め、大学生活を送るようになりました。

大学卒業後、教員として働くようになると、ますます自分の発音が気になるようになってきました。生徒の前で教科書を読んだり、マイクを通して全校生の前で話をしたりすると、笑われたりすることはありませんでしたが、とても緊張し苦痛の連続でした。

結婚すると、さらに嫌なことが増えました。それは、自分の名字にある“ひ”がうまく発音できず、よく聞き返されるのです。特に電話がだめです。何回も言い直し、最後には「は、ひ、ふ、へ、ほ、のひです」と言うことになります。

最近、ある病院の先生から、長男の発音について指摘を受けました。実は長男も私と同じような発音で、「ちょっと変かな?」とは思っていたのですが、私もそうであるように“上手に付き合っていかなければならないこと”なのだと思っていました。さらに“ことばの教室”への通級を勧められました。私の発音を聞いて育った長男のことですから、私は母親としての責任を感じ、悲しい気持ちになりました。反面、早く気づき、治すチャンスなのだ思うと少し楽な気持ちになりました。

私も小学生の頃、“ことばの教室”への通級を勧められたのだそうです。しかし、私の両親は通わせることはありませんでした。“ことばの教室”に対するイメージなど様々な理由があったのでしょうか、結果として大人となった今でも嫌な思いをし、苦労しています。「小学生の時にしっかり練習していれば……」と思うと残念でなりません。

長男の通級の際、「指導が必要」と言う病院と「必要なし」と言う小学校の間で苦労しました。関係機関の認識の違いを感じました。当然素人の私たちの「言葉や発音、ことばの教室」に対するイメージなど、いかにいいかげんなものであるか想像がつかず。

長男は“ことばの教室”へ通ってきれいな発音に変わるでしょう。最近、二男がたくさんおしゃべりをするようになりました。「二男の発音は大丈夫だろうか?」、とても心配しています。私は今からでも“大人のことばの教室”があるのなら通って発音を治したい。そして、どんな言葉も気にせず、思い切り話してみたいと思っています。



### 側音化構音のために人生の岐路に立たされた女子学生、真紀子さん（仮名）

真紀子さん（仮名）は、ある大学の大学院の24歳の女子学生です。

標本になるような側音化構音障害でした。[キ・キャ行] [ギ・ギャ行] [シ・シャ行] [チ・チャ行] [ジ・ジャ行] [ヒ・ヒャ行] [リ・リャ行]の全てが側音化構音になっているのです。しかも、聴覚的には、[チ・チャ行] [ジ・ジャ行]の音は、[キ・キャ行] [ギ・ギャ行]に近く聞こえました。ですから「地球・地中・気球」の発音は、どれも同じに聞こえ区別することはできません。教員の採用試験に無事合格し、卒業を待つばかりでした。

ある日、指導教官から次のことを言われ悩みの日々が続くことになりました。

「あなた、教師になるつもりなら、自分の言葉をなんとかしなさい。できないのなら教師になるのは、諦めなさい。子どもが、あなたの話を聞き取れないことがあるよ。それじゃ教育できないでしょう。」と言われたのですから。

真紀子さんの話では、母親は、真紀子さんが小学校に入学する前から気がついており、担任に相談したが、「そのうちに直るだろう。2年生3年生になって発音が変わる子はいないので。」と言うことなのでほおっていたとのこと。そして、3年生になっても直らないので、母親なりに考え、練習を試みたが直らなかったため、あきらめていたということです。

真紀子さん自身、他の人と言葉が違うことや話を通じないことがあると気がついたのは、母親が一生懸命直し始めた3年生頃からということでした。

真紀子さんに、出身の県どころか市にも1年生の頃にはことばの教室があったことを教えると、「どうして担任はことばの教室のことを教えてくれなかったのだろう？そのとき行っていれば、今、こんなに悩まなくてもいいのに！」との言葉が、本当に悔しそうにポツリとこぼれました。

### うまく言えない発音で口をつぐむ大橋君（仮名）

大橋君（仮名）は、小学4年生の男の子です。

掃除が終わって反省会の時、「綺麗に掃きました。」「綺麗に拭きました。」ということになっています。

大橋君の掃除場所の指導担当になってまもなく、掃除終了後の班での反省の時です。反省の言葉が大橋君の番になりました。「～～できれいに掃きました。」「～～できれいに拭きました。」を言う時、[キ]の発音で、一瞬手を口元に当てるのです。そして、全体的には、ぼそぼそと小さい声で言うのでした。その言葉を聞いて [キ]の音が歪んでいることに気が付きました。明らかに側音化構音です。学級担任は、口数が少ないし、ぼそぼそとした話し方でよく聞き取れないし、行動面でも静かな方なのでこれで良いのだろうかとは考えていたと話をしていました。

消極的な行動やはっきりしない話し方の直接的な原因が、うまくできない発音があることを気にしている結果かどうかは分かりません。しかし、現在気にしていることだけは確かです。その後、指導を受けるようになりました。発音のことを聞いてみました。自分で気がついたのは3年生の頃で、親や友だちから言われたわけではないということでした。

## 3 側音化構音の指導法

側音化構音になった「チ」も、「チ」が「キ」に置換された「チ」も指導の目標は、普通の「チ」です。つまり、側音化構音の指導は、発達上認められる構音の誤りに対する指導と何ら変わることはないのです。従って、構音指導の方法及び構音別の指導の仕方については、Q28をご覧ください。

側音化構音の構音点指導では、微妙な舌の動きの模倣が要求されます。それだけに、子どもと指導者との心的関係が重要になってきます。

指導上の留意事項として、Q12をご覧ください。



- Q 3 0 耳の訓練とは何ですか。また、どうやるのでしょうか。  
 Q 3 1 耳の訓練に役立つ教材教具を教えてください。

「所見」の検討から結果的に構音指導が必要とされた場合でも、構音の問題を主訴に来室した子どもにまずしなければならないことは、構音の発達を促す指導であって、構音指導ではありません。

他の子どもと比べて、構音の問題があるといっても、その子なりの発達の結果かもしれないし、何か原因があつてのことかもしれないからです。従つて、即、構音指導を行うことには問題があります。

構音の発達を促す間接的な指導としては、親子関係を調整することや自己主張のできる子どもに育てる指導などを挙げるすることができます。

構音に直接関わつて、構音の発達を促す指導の一つとして行われるのが、『耳の訓練』です。この耳の訓練は、聴覚的認知力を高めることで構音の発達を促そうとするもので、さらに、結果的に構音指導が必要な場合の基礎的な指導にもなるのです。

耳の訓練のねらいは、大きく分けて3つあります。

- 1 語音に対する聴覚的認知力を高め、《誤り構音》に対する『自己弁別力』を育てる。
  - (1) 『構音』と『意味』の分離を図り、音を音として認知する力を養う。
  - (2) 構音の自己修正力を養う。
- 2 構音の発達を促す。
- 3 指導によって得られた正しい構音を日常生活のことばに般化させる。

耳の訓練については、「ことばの治療—その理論と方法—」「遊びによることばと発音の育て方」の2冊の文献には必ず目を通してください。「役立つ教材教具を」と言うことですが、「遊びによることばと発音の育て方」には、付録として絵カードも付いています。遊びとしての耳の訓練の方法も親向けに親切丁寧に紹介してあります。

けれども、この本は、あくまでも親向けの内容ですから、指導として行うには、スーパーバイズを受け、親が子どもに耳の訓練を行うよりも効果的な耳の訓練にする必要があります。

- Q 3 2 言えない音をどうやって言えるようにするのでしょうか。

構音の指導については、直接的な指導の方法と間接的な指導の方法があります。

直接的な指導の方法 … 構音器官の位置づけ法・他の音を変えていく方法・漸次接近法・鍵になる語を使う方法 等々

間接的な指導の方法 … 耳の訓練・意味論に基づく方法（クーバーの方法）・語用論に基づく方法（構文力を高める指導） 等々

これらの指導、及び構音別の指導の仕方については、下記の文献に詳細に解説してありますのでご覧ください。

ことばの治療—その理論と方法—

口蓋裂の言語治療

言語障害児教育の実際シリーズ① 構音障害

口蓋裂の言語臨床

構音障害の指導技法

側音化構音の指導研究

構音指導の際の一番の留意事項は、『発語することが楽しい、発語することに自信がある、だからもっと発語したい』と子どもが感じられるように指導することです。特に直接的な指導の方法では、乳幼児期から幼児期にかけて、子どもが楽しんで周囲の大人の構音を模倣し獲得していくように、子ども自らが模倣したくなるような指導者との関係の中で指導が進められなければなりません。そのためには、『構音障害の指導』ではなく、『子どもの指導』になるように心がけることだと思います。

側音化構音の構音点指導では、微妙な舌の動きの模倣が要求されます。それだけに、子どもと指導者との心的関係が重要になってきます。

指導上の留意事項として、Q12をご覧ください。

**Q 3 3** 構音練習に役立つ教材教具を教えてください。

筆者がことばの教室の担当になった頃、行木富美子先生からこんなことを言われたことがあります。「私は、サイコロ1個あれば、構音指導の初めから終了まで指導ができる。」と。

いったいどういうことなのでしょう。この言葉を聞いたとき、本当にまじめに、何種類のゲームができるのだろうと考えました。でも、しばらくたってから、構音指導は教材教具の問題ではないという意味にやっと気がつきました。では、どういう意味なのでしょう。皆さんもお考えください。

筆者が現在構音指導上用いている教具は、絵カード、双六の数種類、トランプ、サイコロだけです。これだけで十分のような気がします。

構音指導で教材教具を用いるときに注意しなければならないことがあります。それは、教材教具から子どもを取られないようにするということです。

**Q 3 4** 指導を終了する判断基準は何ですか。

(側音化構音のように微妙な音の場合)

- (1) 完治したかどうかの基準はありますか
- (2) 一度完治した子どもは、その後も完全にその状態が続くのですか

(1)について

機能的構音障害の場合の基準は、指導している構音が日常会話の中で普通の構音になったかどうかです。従って、側音化構音の場合、芋舌や下顎の偏位の消失が認められなくてはなりません。ですから、発音で判断するのではなく、構音での判断が必要になってきます。

器質的構音障害の場合の基準は、発語発声器官の形態や機能の状態からこれ以上の改善が認められないと想定される構音の状態と考えています。

(2)について

側音化構音の場合、どんなに奇麗に構音が改善されたとしても、数ヶ月後には元の側音化構音に戻っている（逆戻り現象）ということが、たまにあります。ですから、終了判断は慎重に行われなければなりません。逆戻りの原因は、それらしい発音に聞こえるようになっただけで、芋舌も残っており、本当は、元もと改善されていなかったということが多いようです。

**Q 3 5** 家庭での練習のさせ方について教えてください。

家庭は家庭であって、訓練や練習の場ではない。母親は母親であって、指導者ではないというのが、筆者の基本的な姿勢です。しかしながら、その子どもにとって必要な指導内容をこなすには、毎日1時間を確保しなければならないとしますと現実的には通級不可能ということになります。それを週2回の通級で行おうとすれば、指導終了のめどさえ全く立ちません。ですから、このような子どもの指導に限って、家庭に練習をお願いすることはあります。

指導には、「質」の指導、「量」の指導があります。つまり、「質」の指導とは、子どもを変化させる指導のことです。例えば、できなかった構音ができるようになったり、補聴器の操作ができるようになったりすることです。一方、「量」の指導とは、習熟に関わる指導です。例えば、ことばの教室でできるようになった構音が日常会話でも使えるようにするために反復練習を行ったり、補聴器の使い方に慣れさせるためにテレビを見せるときにテレビの音量を変化させ、補聴器の音量をその音量に応じた目盛りに変化させることに慣れさせるなどです。

家庭にお願いできるのは、当然「量」の指導に限られます。「質」の指導が家庭でできるのであれば、通級させる親はいないでしょう。

例えば、発音の練習を家庭にお願いするのであれば、もちろん構音点指導が終了してからということになります。少なくともことばの教室では、「ちって言ってみて。」の指示で、子どもが簡単に「ち」と言えるようになってからということになります。その際、指導の仕方を親に参観してもらうようにします。そして、指導者が直接指導の仕方を親に教えるようにします。指導の実際を見ないでは、親は、家に帰ってから困るだけですから。

教科書的な本に「家庭での練習も大切」と書いてあったとしても、念のためですが、指導者ができない指導は、家庭での練習の課題にはなり得ません。

また、家庭での練習を親に勧める前に、親子関係の把握は、間違いのないように慎重に行います。家庭での練習のために、親子関係が崩れ出したというのでは困りますから。

**Q 3 6** 他のことばの教室や指導機関から紹介されてきた場合、どのように指導を継続すれば良いのでしょうか。

他のことばの教室や指導機関で指導を受けていたとしても、こちらの教室に来た以上は、指導の責任はこちらの教室で100%負わなければなりません。従って、前の指導機関での指導が妥当な指導であったかどうかの検討から取りかかることになります。でも、そのためには、全くの初回面接と同じように、「子どもの理解」から始めなければなりません。

ですから、他のことばの教室や指導機関で指導を受けていたかどうかは問題ではないわけです。例えば、前の指導機関で、「カ」の構音について単語の語頭での練習を行っていたとします。では、その続きからの指導が可能かどうかは別問題です。子どもからすると、これまでとは違ったタイプの指導者であれば、指導者との関わりに戸惑いを感じ、上手く構音できなくなることもあるのですから。

繰り返しますが、どんな場合であっても、こちらのことばの教室にあっては、初回なのでですから指導を受けていない子どもと同じような手続きで指導を開始するようにします。